

舎



舎人ふるさと

かるた

平成 29 年 1 月 14 日発行

★責任・編集・発行

舎人地域学習センター・図書館

『指定管理者』ヤオキン商事株式会社

足立区舎人 1-3-26

Tel:3857-0008 Fax:3897-6136

はじめに

舎人図書館では、足立区制80周年記念事業の1つとして、地域の方々にご協力いただき『舎人ふるさとかるた』を作成しました。

2012年の夏からはじまり、地域の方々の力で全46種類のかるたが出来上がりました。舎人・古千谷・入谷を中心とした、歴史的、文化的な場所など地域の魅力がぎゅっとなつまっています。

かるた札の表面には写真と句が、裏面にはその場所の説明が載っています。

※この冊子に書かれている役職等は2012年時点のものです。



わが町の 古寺を巡りて いにしえしのぶ
 舎人地域の寺院
 舎人・古千谷・入谷は、江戸時代にたくさんの寺が移転してきたのだ
 そうです。仏像や墓地として見るだけでなく、寺の歴史を訪ねて、わが
 町の歴史・寺巡りをしてみるのも楽しいです。おすすめは西門寺や、妙
 蓮寺などです。
 (句・文：助産師 山田吉江
 写真：フォトクラブメビウス会長 軽部忠志)



集まれば 絆つながる 舎人センター
 舎人センター
 1階が住区センターと区民事務所、2階が図書館、3階が地域学習セ
 ンターです。住区センターや地域学習センターでは様々な講座や教室、
 サークルの活動が行われています。大人の方も子ども達もぜひ趣味や生
 きがいを見つけに舎人センターに来て下さいね。



高齢者 悩まずここへ 相談を
 地域包括支援センター入谷
 地域包括支援センター入谷は特別養護老人ホームあだち翔裕園の一
 階に事務所を構えています。舎人・入谷・古千谷にお住いの高齢者
 (六十五歳以上)の介護の悩み、介護保険について、ご自宅での不安
 や介護予防教室などの相談窓口です。お気軽にご連絡下さい。
 (句・文：地域包括支援センター入谷職員一同)



今はもう あそぶ子等なき 寺の庭
 西門寺
 近所の子も達が12、3人。遊ぶのも、学校へ行くのもいつも一緒。
 土曜日は持ち寄りで昼食会をやりました。場所はお寺の庭。ご住職のご
 厚意でお菓子等の差し入れも頂きました。たらふく食べた後は日の暮れ
 るまで遊びました。(句・文：地少協会会長 小野田みよ子)



春爛漫 舎人公園 レーガン桜
 レーガン桜
 明治四十五年ワシントンのポトマック河畔に、日本から贈られた桜が植樹されまし
 た。その苗木がレーガン元大統領夫人の尽力によって里帰りし、それが舎人公園の
 「レーガン桜」だそうです。私は平成十六年度より四年間行われた「舎人公園桜の森
 づくり事業」に参加。孫の成長の想いを込めたプレートが桜につけられ、孫の成長と
 ともに桜の成長を楽しみにしています。
 (句・文：青少年対策舎人地区委員会会長 小金井寛)



うれしいね 笑顔行き交う 散歩道
 見沼代親水公園
 代用水としての役割を終えて誰でもが楽しめる親水公園として甦り
 ました。朝・夕は散歩コースとして土・日にはザリガニつりをする親子
 等、いつの間にか顔馴染みも増え、地域の繋がりもできました。春夏秋
 冬も楽しんでいきます。(写真：フォトクラブメビウス会長 軽部忠志)



圓通寺 明治初めは 協和小学校
 圓通寺
 平成25年に120周年を迎えた舎人小学校は、明治26年に現在の地に
 開校しました。実はこれ以前に明治5年、圓通寺に第十九番公立小学
 協和学校が開校しました。また、明治9年に西門寺が第十六番公立舎人
 小学校を開校しています。
 (句・文：足立区農業委員会会長 大熊久三郎 写真：米野義雄)



おに公園 今日元気な 子らの声
 舎人いきいき公園
 舎人いきいき公園は「おに公園」として親しまれています。公園の中
 には赤鬼や竜宮城のすべり台、桃太郎の砂場など、まるで物語の主人公
 になったような気分です。丸椅子には童謡やわらべうたも書いてあり、
 懐かしい気持ちになります。(句：舎人自治会会長 笠原清子)



髪をまつる話の毛長神社

毛長神社

毛長沼伝説・新里村の長者の家の跡に、長者の娘の髪をご神体として祀る神社。ご神体が女性の髪の毛であることは全国でも珍しい事例です。毛長沼にまつわる言い伝えは数多くあり、埼玉県草加市の広報誌「広報そうか」第360号の「そうか昔話」にも掲載されています。

(句：足立史談会幹事 薊照夫)



ライナーのベルが急かせる始発駅

見沼代親水公園駅

農家の軒先や垂れ下がった枝をかすめながら、曲がりくねった道を守る「バス」が唯一の交通手段だった頃、畑の先には遠く富士山も眺められた。今ではライナーが走り高層建築物が連立し、込み合った住宅に遮られ見ることができなくなってしまったが、高い駅のホームや天空を走るライナーの窓からは、今もこれから先も富士の勇姿を見ることができる。「幸せ」。

(句・文：フォトクラブメビウス会長 軽部忠志)



キラキラと輝く瞳の子どもたち 育むものは家族のぬくもり

楽しい保育園

いりや第一保育園

昭和五十一年六月の開園以来、地域の子育ての中核を担ってきた足立区立の保育園です。いりや第一・第二は双子のような存在で、二才の誕生日を迎えるお子さんから保育をしています。広い園庭・園舎には、子ども達の活気が満ち溢れています。(句・文：元いりや第一保育園園長 菅原美和子)



リラックス 毛長緑道が散歩道

毛長緑道

散歩をするには最適な道のひとつが、毛長緑道です。川のせせらぎに耳を傾けながらする散歩はとても気持ちの良いもので、心身ともに私をリラックスさせてくれます。蛇行する散歩道を歩きながら、季節の移ろいを感じることができます。私のおすすめしたい散歩道のひとつです。(句・文：東京足立相撲甚句会会長 林太一)



車行き交う 高架の下の 尾久橋通り

尾久橋通り

南北をほぼ直線で結ぶ道の上には、日暮里・舎人ライナーが走り、沿道にはビルが増え、昔の街並みが消えつつありますが、周辺には区内でも有数の公園や緑道があり、四季折々に訪れる人々が、森林浴やお花見を楽しんでいます。(句・文：伊興在住 武内信子)



るんるん気分で 遊ぼう歌おう 舎人住区センター

舎人住区センター

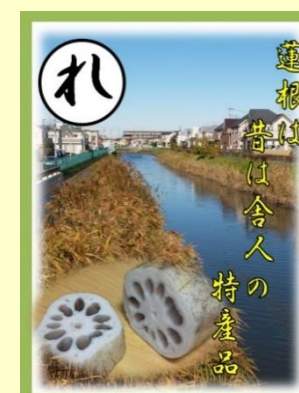
舎人センターの一階には、舎人住区センターがあります。高齢者のための施設「悠々館」や「児童館」、「学童」といった3つの施設が集まっています。日々、地域のみなさまのために、楽しいイベントや講習を開催しております。あなたの生きがいと一緒に発見してみませんか？舎人住区センターでお待ちしております。(協賛：舎人住区センター一同)



毛長川 悲しい夫婦の語り伝え

毛長川

昔、舎人村の長者の息子と新里村の長者の娘が結婚しました。しかし数年後、娘さんと嫁ぎ先の両親の折り合いが悪くなり、娘さんは沼に身を投げてしまいました。しばらくたった夏、暴風雨の後に三、四メートルほどの黒髪が流れてきました。新里村の長者はこの髪をご神体として祀りました。(句：足立区農業委員会会長 大熊久三郎)



蓮根は 昔は舎人の特産品

舎人地域

荒川・江戸川・中川水系の大小河川が運んできた肥沃な粘質土、夏冬の乾燥期でも水が枯れない強湿田は、れんこんの栽培に最適です。舎人も毛長川沿いで大量に栽培されていたそうです。明治8年中国から輸入した蓮を舎人で増殖し、各地で昭和30年代まで栽培されていました

(句・文：足立区農業委員会会長 大熊久三郎
写真：フォトクラブメビウス会長 軽部忠志)



木漏れ日に 佇み見守る 諏訪神社

諏訪神社

私が生まれる前から、8月27日・28日に相撲大会が行われていました。賞品もおもちゃやお菓子ではなく、七輪やよこびつ(農家で使う丈の長いかご)、竹ぼうき等の実用品だったので、親が喜んでおこづかいをもらっていました。

(文：舎人町会会長 平柳武雄)



六才橋 今は変わって 西門寺橋

西門寺橋

昭和三七年一月七日、竹ノ塚西口より舎人二つ橋(現在は見沼代親水公園駅)の間に東武バスの運行が開始されました。停留所に西門寺橋があります。元々は六才橋と呼ばれていましたが、意味が分かりにくいということで変えてしまいました。

(句・文：足立区農業委員会会長 大熊久三郎)



やってたね 三本仕立ての 菊作り

入谷南中学校

大きな桶のある創立二十七年目の入谷南中学校。以前、わが子も通っており、当時は地元の方の力を借りて、三本仕立ての菊を育てていました。現在は行っていませんが、代々続くソーラン節は今も舎人氷川神社のお祭りでも踊られています。菊作りやソーランで深まった子どもたちの友情は今も続いています。

(句・文・写真：マツエ時計眼鏡店 松江京子)



彩の国との 心も紡ぐ 新砂子路橋

新砂子路橋

埼玉との県境、毛長川にかかる新砂子路橋。「しんしやごじばし」と読みます。橋名板には力強く「しんしやごじばし」と書かれています。埼玉とつながるこの橋の脇には、毛長川沿いに桜並木の緑道が続いています。春になると桜が見ごろです。

(句：舎人自治会長 笠原清子)

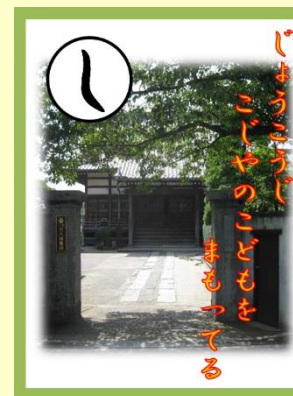


夕暮れや 取り残された 柿一つ

源証寺

何年か前、散歩の途中で偶然に出会った、まるで里山のような干し柿と鐘楼の風景は、宝物を探し当てたような驚きでした。渋の抜けた頃合いを見て、小鳥たちが飛来する余情的な風景を、毎年楽しみながら撮り続けています。

(句・文・写真：フォトクラブメビウス会長 軽部忠志)



じょうこうじ こじやのこどもを まもってる

浄光寺

浄光寺は開山専譽上人、開基はもと真野の姓をもつ花井正義によって享禄三年(一五三〇)に創建されたと伝えられています。昭和四二年より舎人幼稚園を開園し、子どもたちの成長を見守ってきました。境内には、真野日向守、花井肥前守、花井内蔵之助など寺にゆかりのある人物の墓や多数の石造物が遺されています。(句・文：浄光寺住職 大島文夫)



用水に 想いを馳せる 舎人橋

舎人橋

見沼代用水と中居堀・毛長川が交差する所に架かる橋、舎人橋。以前は川の上に川が流れていたようで、これを「掛(かけ)樋式(といしき)」と呼びます。現在は工事され、新しくなっているようですが、四方を見回し、川をのぞいてみると、川の上に川を流す昔の人の「掛樋式」の技術に驚かされます。(句・文：歴史ボランティア 榎本紀子)

写真：フォトクラブメビウス会長 軽部忠志)



すてきな出会い ふれあい 生きがいの 入谷住区センター

入谷住区センターは、子どもからご年配の方まで「出会い、ふれあい、生きがい」をモットーにさまざまな教室、レクリエーション講習会などを通じて地域の皆様に愛される、居心地の良い住区を目指しています。ぜひ一度、お立ち寄りください。

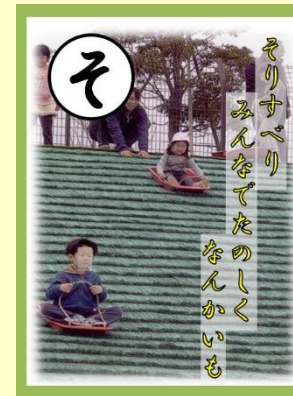
(句・文：入谷住区センター職員)



洗濯干しに屋上に 富士山見える ふきのとう

グループホーム ふきのとう

グループホームふきのとうの入所者は、毎日楽しく生活されています。日課である洗濯干しに屋上に行かれた時に、きれいに富士山が見えた時は、手を合わせられています。そんな感動を入所様が一句作って下さいました。(句・文：グループホームふきのとう スタッフ)



そりすべり みんなでたのしく なんかいも

舎人公園

面積約六十三万平方メートルの広大な舎人公園にはたくさんの施設があります。なかでも「そりグレンデ」は親子に大人気です。よく娘と息子を連れて行きますが、風を切って滑るのはとても気持ちが良い、子ども達は日が暮れるまで何度も楽しんでいました。

(句・文：ヨガインストラクター 吉田智子
写真：フォトクラブメビウス会長 軽部忠志)



泰山木が見守る 古千谷っ子 仲良く強く 日に日に進む
古千谷小学校
「泰山北斗」のことばより、泰山木が学校の木となっています。その道では最も優れ、世の人から愛され尊敬される人、また落ち着いて度量の大きい事も意味しています。6月上旬には見事な大きい白い花が咲きます。(句：古千谷小学校校長 田中裕子)



丸い形の 古墳にあるよ 入谷氷川さま
入谷氷川神社
新編武蔵風土記稿に「八幡社塚上にあり、土人白旗八幡と称す、古岩槻攻めの時、当所に幡を立しより、かく称せしと」明治七年舎人氷川神社より祭神スサノオの命を分祀し、氷川神社とした。
(句・文：足立史談会幹事 薊照夫
写真：フォトクラブメビウス会長 軽部忠志)



地域の発展と家庭の 貯蓄を守り育てる 足立舎人郵便局
足立舎人郵便局
郵便局はお金を預けたり、手紙や小包を送るだけではありません。ひとりひとりのお客様に最適なサービスを提供することが、地域の発展と家庭の財産を守ることに繋がると舎人郵便局は考えています。郵便も貯金も保険もすべて舎人郵便局におまかせください！
(句・文：足立舎人郵便局長 横山茂樹
写真：フォトクラブメビウス会長 軽部忠志)



見沼代 校歌に残る 舎人小
舎人小学校
明治二六年十一月二十八日開校。賦全（ふぜん）尋常小学校を舎人尋常小学校と改称し現在地に校舎を新築し開校した。平成二十五年十一月に百二十周年となり記念行事を予定している。舎人小学校校歌 昭和三十八年、創立七十周年を記念して制定。作詞 永井鱗太郎、作曲 外山雄三「みどりににおう 野のみやこ ゆめを拓いた 見沼代(しろ) めぐみの流れを今にうけ…」(句・文：足立史談会幹事 薊照夫)



造り人 不詳の龍の 眠る杜
舎人氷川神社
この神社は、鎌倉時代初期、正治二年に創建されたと伝えられています。向拝柱に彫られた昇竜と降龍、八岐大蛇などの彫刻は見事ですがその作者は分かっています。私が舎人に来た頃（昭和四五年頃）は拝殿に柵もなく彫り物に触れることもできましたが、残念ながら現在間近に見られるのは公開日のみとなっています。(句・文：フォトクラブメビウス会長 軽部忠志)



無邪気な笑顔 また遊ぼうね♪ とハイタッチ
古千谷西公園
私は足立区の公園あそびボランティアや子育て仲間づくりのボランティアに参加しています。その活動の中で、古千谷西公園で子ども達と遊びました。いつも子ども達であふれる古千谷西公園は無邪気で可愛い笑顔がいっぱいで、元気をもらっています。
(句・文：パークエンジェルの会 子育て仲間づくりおひさま 瀧澤さやか)



寺町を 駆ける子 東伊興小
東伊興小学校
多くの寺院が集まる東伊興の地域は「寺町」と呼ばれ親しまれています。東伊興小学校では、毎年その寺町をめぐる道を全校児童が駆け抜ける「寺町マラソン」が行われます。閑静な町並みに大きな声援が響き渡る冬の1日です。(句・文：東伊興小学校校長 石川和巳)



夫婦杉 諏訪神社には 今はない
夫婦杉
昔、諏訪神社の境内には二本の大きな杉が並んでおり、土地の人々に夫婦杉と呼ばれていました。ところが享保13年頃、水田を潤すために夫婦杉の間に掘割を作ることになりました。すると、杉はどちらからともなく枯れてしまったそうです。それ以来、舎人村の花嫁行列はこの杉の木の前を避けるようになりました。
(句：足立区農業委員会会長 大熊久三郎)



友だちいっぱい 楽しいな
「げんき えがお あったかあいさつ」いりや第二保育園
いりや第二保育園
周辺には自然豊かな公園も多く、四季折々の自然と親しむ子ども達。地域の中ですくすくとたくましく育っています。ひとり一人の子どもを大切に、地域の子育ても応援しています。子育て情報も満載ですよ。明るく元気ないりや第二保育園に、ぜひ遊びに来てください。(句・文：元いりや第二保育園園長 市川友子)



諸手の鈴は静寂に ポックリころがり 松ポックリ
諏訪神社
古千谷氷川神社はかつての赤山道古千谷橋の所で、古千谷の最も高い場所にあります。いつもひっそりと古千谷の街を見守っているようです。以前古千谷には神輿がありませんでした。その代りをするのが大般若です。昔から伝統行事として無病息災や家内安全などを祈願していました。現在でも地域の人々に受け継がれ、守られています。(句・文：白日会 原田多喜子)



中居堀 桜のトンネル きれいだね

中居堀

都県境の川口市と足立区を流れている見沼代用水と毛長川・中居堀が交差している地点があります。その舎人第一小学校方面を中居堀、舎人二つ橋方面を毛長川と呼びます。中居堀の近くでは春には満開の桜並木を見ることができます。

(句：足立区農業委員会会長 大熊久三郎)



日暮里へ 便利になった 舎人駅

舎人駅

私は夫の介護でよく都心の病院に行っていました。日暮里・舎人ライナーが開通するまでは都心に出るのにとっても時間がかかり、大変でしたが、開通後はかかる時間も短くなりました。その当時、ライナーがあれば楽だったでしょう。また、海外で働く息子も「ライナーのおかげで帰りが便利になった」と言っています。(句・文：ひよこ文庫 江村幸子)



ぬの絵本 親子の絆を結ぶ 舎人図書館おはなし会

舎人図書館

舎人図書館には様々な布絵本やエプロンシアターがあります。平成十年、舎人センターの教室からひよこ文庫が発足し、布絵本を図書館や社会福祉施設に寄贈をしてきました。布のおもちゃや布絵本でお子さんが楽しそうに遊んでいると、私たちもとても嬉しい気持ちになります。細かな作業ですが、その笑顔のために楽しんで、制作しています。(句・文：舎人センター登録団体 ひよこ文庫)



ネットワークで 安心をお届けする 足立古千谷郵便局

足立古千谷郵便局

昭和四十三年九月、足立古千谷郵便局は、ここ古千谷に開局しました。以来四十五年、地域の皆さまに愛される郵便局を目指し、社員一同、笑顔と元気いっぱいに取り組んでいます。ユニバーサルサービスで皆さまのご来局を心からお待ちしております。

(句・文：足立古千谷郵便局長 川越義司
写真：フォトクラブメビウス会長 軽部忠志)



のんびりと 老後を楽しもう 紫麿園で

特別養護老人ホーム紫麿園

紫麿園は、足立区で二番目に古い施設です。入所者の皆さんの平均年齢は八十歳を超えていますが、クラブ活動やリハビリを楽しんでいます。毎月本の読み語りを聞いたり、歌を歌ったり体を動かす体操をしたり、舎人図書館とも縁のある施設です。ぜひ、紫麿園に来てお話しを試みませんか。(句・文：紫麿園 石松智)



バス停の 地名に今昔 赤山街道

赤山街道

私は五年ほど前から月二回、舎人センターへバスで通っています。車窓から、整備された道路を見て、畑が多かった時代を思い出します。また、バスの停留所には今はなき橋の名前（はんの木橋、古千谷橋、西門寺橋など）があり、この旧街道に郷愁と現代が交錯します。

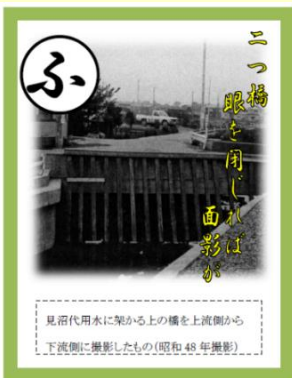
（句・文：東京足立相撲甚句会会長 林太一）



氷川神社 なども鹿浜 七祭

鹿浜七祭

島に氷川神社と諏訪神社。糍屋の氷川神社。金毘羅神社、古内に天祖神社。東ズシに天満宮。押部に八幡神社と、計七社があります。それぞれ祭礼のために囃子があり、人々は鹿浜の七祭といっていました。農家の方は休日が少なかったので、祭礼で休むことを「正月をもらいにゆく」といいました。（句・文：日本伝統俳句協会理事 柴原保佳）



二つ橋 眼を閉じれば 面影が

舎人二つ橋

見沼代用水に架かる橋を上橋（かみのはし）、毛長川に架かる橋を下橋（しものはし）と呼び、二つの橋が連続していたのでこのように呼ばれました。現在は見沼代用水は見沼代親水公園に、毛長川は毛長川緑道になっています。毛長緑道の入口には高さ約1mの石にプレートがはめこまれています。（句・文・写真：足立史談会幹事 薊照夫）



平和な町 いつも見守り 支えてる

見沼代親水公園駅前交番

日暮里舎人ライナーの終点、見沼代親水公園駅の前に交番があります。舎人地区一带を守るこの交番では、地域の人たちの安全を支え、安心して毎日を過ごしてもらうため、日々の仕事に励んでいます。目の前の尾久橋通りは埼玉とつながる大きな通りで、車もたくさん通ります。事故が無いよう、特に交通安全に力を入れています。



微笑みつ 人すれちがう ふれあい橋

ふれあい橋

毛長川にかかる二つ橋と砂子橋の中ほどに、ふれあい橋は舎人四丁目の町民の要望で、平成元年三月に完成しました。自動車の通らない小さな橋の欄干からは、春は土手のタンポポが、秋は風に揺れるススキなどが郷愁を誘います。心と心がふれあう、そんな橋です。

（句・文：三輪アイ子 写真：フォトクラブメビウス会長 軽部忠志）